

生活現場の声を軸足に

公明 府本部幹事長 大道 義知氏

——民主党政権の3年をどうみる。

「経済対策は何も手が打てず、普天間基地問題を含めた外交の迷走、マニフェストの不履行もあった。東日本大震災からの復興も遅れている。改革路線と言ったが、結局改革も逆行して何もできなかった。政権担当能力が欠如している政権だと断ぜざるを得ない」

——今回の選挙では何が問われる。

「政党の力そのものが問われる。政権担当能力のある政党はどこか、具体的な経済対策を実行できるのはどの政党か、地域の声を反映し、実現できる政党はどこか。政党力がふるいにかけてられる選挙になる。生き残った勢力が国民の信託を得た政治勢力として集まるとみている」

——選挙でまた「風」が取りざたされているが。

「風頼みの選挙に国民も嫌気が差し、実態がある政党を求めているのは確かだ。政治は期待だけでは務まらない。日本沈没のぎりぎりの状態で、風頼みの政党に『もう一回やらせてみたらどうだ』という時間的な余裕はまったくない。生活現場の声を政策に反映させる本来の政治を公明党はやっていきたい」

——第三極への期待をどう受け止める。

「民主党政権に失望し、新しい政治の形を求める国民の希望や要望を受けとめる結集軸として現れたという意味では一定評価はすべき流れだと思う。ただ第三極の方向性はまだ不明瞭で足場も実績も実態もない。ブーム的に政策が一致しない政党が寄り集まっているという実態が、徐々に明らかになってきている」

——不況下に消費税増税を3党合意で進めたことに批判がある。

「今後も高齢化が進み、安定的な財源が求められる。すぐに上げるということではなく、経済の回復が条件となり、使い道についても国民会議で国民の理解を得る話し合いもしなければならない。食料品への軽減税率の導入など制度を整えれば一定理解がしてもらえるはずだと思う」

——京都での戦略と目標は。

「近畿ブロックでは大阪、兵庫の6小選挙区と比例区4議席の死守を目指す。府内では比例票16万5千票の目標を掲げた。過去の地方選挙の最高得票を合計した数字になる。災害対策の分野に10年間で100兆円の投資を行い、経済の回復や100万人の雇用確保、国民の安全につなげる『防災・減災ニューディール』などの政策を訴える。『限界突破の戦い』に挑み、勝利を引き寄せたい」

(聞き手・高橋道長)

目標 無党派層へ働き強める

今回も京都6小選挙区に候補は立てず、比例近畿に京都を地盤とする前職竹内譲氏ら4人を擁立する。5期務めた池坊保子氏の引退で竹内氏が近畿唯一の前職候補となり、比例名簿順位（前回4位）が注目される。

前回衆院選の府内比例得票数は14万2千票で、05年衆院選の15万8千票から減らした。今回は地方議員を中心に無党派層への働きかけも強める。

前回、小選挙区では4区を除く自民党候補5人を推薦した。今回も推薦依頼はあるが、「野党の立場であり、与党時代とは違う」との認識から、各候補の政策を慎重に見極め、是々非々で臨む。